

(口語訳) 鶴が山中の奥深き沼沢にて鳴く。その声が野まで聞こえる。賢者の令聞は、一般の人が知るばかりではなく、在朝の人にも知られるものがあることに喩えた。

(二) 『文選』司馬相如「長門賦一首」：(武帝の陳皇后が別居していた所。陳皇后は武帝に退けられ、長門宮で悶々の日を送っていたが、司馬相如が文章が巧みであることを聞いて、憂いを解く文章を作らせた。それがこの賦である)。

白鶴噉以哀號兮 孤雌跼於枯楊

(口語訳) 白い鶴は悲しげな声をあげて鳴き、連れなき鳥は枯れた楊に止まっている。

(三) 『藝文類聚』「卷九十、鳥部上、鶴」の「琴操」の内容

琴操曰、商陵牧子、取妻五年無子、父兄將欲為改娶、妻聞、中夜驚起、倚戸悲嘯、牧子聞、援琴鼓之、痛思愛之永離、因彈別鶴以舒憤、故曰別鶴操。

(口語訳) 琴操につきのように述べてある。商の陵牧子という人は、妻を娶って五年も子が無かった。

そこで父兄がまさに妻を娶りなおそうとしたので、牧子の妻がこれを聞き、ま夜中に驚いて起きだし、戸によりかかって悲しんで泣いた。牧子はこれを聞き、琴を引きよせ奏でて、夫婦の情愛が永久に離れてしまうことをいたみ悲しんだ。そして「別鶴」という曲を作り弾いて憤りを表したという。故にこの曲を別鶴操という。

補説②

○90 句目 「飢類嚇雛鳶」の句に込められている「嚇雛鳶」についての考察